

2022年度 後期

東北大学会計大学院アンケート実施報告書

Tohoku University Accounting School

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

1. はじめに

東北大学会計大学院は2005年4月に国立大学法人では初めての会計専門職大学院として開設された。本会計大学院の目的は、グローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである。本会計大学院での教育の理念は、会計分野の知識だけでなく、経済や経営、IT、法律といったこれからの社会で会計の専門家として活躍するために求められる知識と素養を修得することである。この理念を達成するため、私たちは、社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている。このような理念に鑑み、私たちは、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくためのひとつの手段として、毎 Semester 終了後にアンケートを実施している。過去のアンケートは、「アンケート実施報告書」として本会計大学院のウェブサイト¹で公開している。

私たちがこの報告書を公表する意図は、東北大学会計大学院への入学希望者や、学生の主要な就職先となる監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に、本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。この報告書の公開によって、本会計大学院の修了生が高い意欲をもって学習に取り組んでいることを示すことができると考えている。

また、私たちは、このアンケート実施報告書を在学生在が教員に対して発信したメッセージと捉えている。今後とも、私たちはアンケートを通じて改善すべき点を見出し、質の高い教育サービスを提供できるよう努力していきたい。2020年から続く新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、講義の対面による実施は未だ限定的であり、引き続き今学期も多くの科目でオンライン講義形態となった。状況の変化には柔軟に対応しながらも、本アンケートの結果を踏まえて、今後の会計大学院の授業がさらに良いものに改善されていくことを願っている。

本会計大学院は2018年度に会計大学院評価機構による認証評価を受け、すべての基準に適合しているという評価を受けた。2020年度からはビジネスアカウンティングコースを設置し、カリキュラムの体系も見直した。新しいカリキュラム体系の確認、そして、改善のために今回のアンケートの結果を活かしたいと考えている。

2023年5月

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

¹ <http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/classeva.html>

2. 実施方法

本報告書の対象となるアンケートの種類と配布期間・対象者は以下に示す通りである。多くの講義をオンラインで実施していることから、オンラインでのアンケートとしている。

①「会計大学院の修了者に対するアンケート」(巻末資料 1)

2022年4月から2023年3月にかけてメーリングリストや個人面談時における担任からのアナウンスを通じて Google Form の URL を配布。

②「会計大学院の授業に関するアンケート」(巻末資料 2)

2023年1月23日(月)～2月3日(金)にメーリングリストや担当教員からのアナウンスを通じて Google Form の URL を配布。

両アンケートともに無記名であり、1学生につき1回限りの回答とした。「会計大学院の修了者に対するアンケート」は、2022年度中に会計大学院を修了する学生を対象にアンケートを行っている。「会計大学院の授業に関するアンケート」は、プロジェクト調査・研究以外で履修者数(他専攻または他学部からの履修者も含む)が5名以上の科目を対象とし、学生は受講している講義ごとに回答を行っている。

本報告書では、まず「会計大学院の修了者に対するアンケート」の集計結果から、本会計大学院の教育システム全般に関する分析結果を示して問題点を明らかにし、今後の対応について述べる。続いて、「会計大学院の授業に関するアンケート」の結果を集計し、今semesterに開講された科目について、その教育内容・教育方法全般に関する分析を行い、その問題点を明らかにし、今後の対応を検討する。なお、本報告書ではアンケートにより得られたデータを可能な限り定量的に分析を行う。

「会計大学院の授業に関するアンケート」における科目毎のアンケートの集計結果と自由記入欄の記載内容は、担当教員に原文を直接報告している。2022年度からはアンケート結果に対する担当教員からのリプライを収集し、学内向けに公開している。また、2022年度前期には入学前の出身を示す設問17、2022年度後期からは主な授業方法を示す設問18を追加するなど、アンケートの充実を図っている。ワークショップ委員会では、各教員がこれを通じて次年度以降の講義内容の充実に資することと期待している。

3. 「会計大学院の修了者に対するアンケート」の集計結果について

3.1. アンケートの実施状況

本アンケートの URL は 2022 年度 4 月から 2023 年 3 月にかけてメールリストや個人面談時における担任からのアナウンスを通じて配布され、回収を行った。2022 年度における会計大学院の修了者 31 名（2022 年 9 月修了者 5 名，2023 年 3 月修了者 26 名）のうち，回収数は 19 件である（回答率 61.3%）。オンラインでの任意回答であることを踏まえると回答率は参考にすべき水準にあり，アンケート結果には会計大学院修了生の総意が反映されていると考えられる。

3.2. 設問ごとの集計結果と推移

以下では，それぞれの設問についての集計結果と，過去に「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」においてほぼ同様の内容の質問を行っていた設問 4，設問 5 については，直近 8 年度分の推移を示している。なお，全項目の集計結果については巻末資料 3 を参照されたい。

設問 1 および設問 2（表は未掲載）は受講者属性を問うものであり，19 件の修了者からの回答のうち，16 件が公認会計士コース，3 件がビジネスアカウンティングコース修了者からの回答であった。

設問 3: これまでに受講してきた授業をふまえ，授業内容は会計大学院として適切な水準にあると思いますか？

選択項目	2019	2020	2021	2022
適切である	75.00%	36.84%	76.47%	68.42%
ほぼ適切である	16.67%	63.16%	5.88%	31.58%
どちらともいえない	8.33%	0.00%	17.65%	0.00%
やや不適切である	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
不適切である	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
計	100%	100%	100%	100%
総数	12	19	17	19

設問 4: セメスターごとの開講授業科目数のバランスは適切だと思いますか？

選択項目	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
適切である	44.44%	37.04%	27.78%	47.37%	91.67%	57.89%	70.59%	63.16%
ほぼ適切である	38.89%	37.04%	33.33%	26.32%	8.33%	26.32%	5.88%	26.32%
どちらともいえない	5.56%	14.81%	11.11%	10.53%	0.00%	15.79%	23.53%	10.53%
やや不適切である	0.00%	7.41%	27.78%	15.79%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
不適切である	11.11%	3.70%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%
総数	18	27	18	19	12	19	17	19

設問 5: 成績評価に用いている GPA は，学生個々の能力を適切に評価できる（た）と思いますか？

選択項目	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
適切である	33.33%	11.11%	27.78%	50.00%	83.33%	15.79%	64.71%	63.16%
ほぼ適切である	27.78%	44.44%	27.78%	38.89%	16.67%	36.84%	11.76%	31.58%
どちらともいえない	22.22%	18.52%	27.78%	0.00%	0.00%	31.58%	23.53%	5.26%
やや不適切である	11.11%	14.81%	16.67%	11.11%	0.00%	10.53%	0.00%	0.00%
不適切である	5.56%	11.11%	0.00%	0.00%	0.00%	5.26%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%
総数	18	27	18	18	12	19	17	19

設問 6：時間割上の配置について適切だと思いますか？

選択項目	2019	2020	2021	2022
適切である	75.00%	26.32%	82.35%	42.11%
ほぼ適切である	25.00%	47.37%	5.88%	42.11%
どちらともいえない	0.00%	21.05%	5.88%	10.53%
やや不適切である	0.00%	5.26%	5.88%	5.26%
不適切である	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
計	100%	100%	100%	100%
総数	1	19	17	19

設問 7：講義室について満足度をお聞かせください

選択項目	2019	2020	2021	2022
満足である	91.67%	36.84%	58.82%	42.11%
ほぼ満足である	8.33%	42.11%	17.65%	31.58%
どちらともいえない	0.00%	15.79%	17.65%	26.32%
やや不満足である	0.00%	5.26%	5.88%	0.00%
不満足である	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
計	100%	100%	100%	100%
総数	12	19	17	19

設問 8：院生研究室について満足度をお聞かせください

選択項目	2019	2020	2021	2022
満足である	58.33%	47.37%	52.94%	15.79%
ほぼ満足である	33.33%	26.32%	11.76%	36.84%
どちらともいえない	0.00%	15.79%	23.53%	31.58%
やや不満足である	8.33%	5.26%	5.88%	10.53%
不満足である	0.00%	5.26%	5.88%	5.26%
計	100%	100%	100%	100%
総数	12	19	17	19

設問 9：会計大学院のトータルの満足度について

選択項目	2019	2020	2021	2022
満足である	83.33%	52.63%	47.06%	42.11%
ほぼ満足である	16.67%	42.11%	29.41%	52.63%
どちらともいえない	0.00%	5.26%	23.53%	5.26%
やや不満足である	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
不満足である	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
計	100%	100%	100%	100%
総数	12	19	17	19

3.3. 自己評価と今後の課題

ここでは、設問3から9の集計結果をもとに、課題やその対応を検討する。

設問3（授業内容の水準）については、「適切である」、「ほぼ適切である」と回答した学生の割合を合わせると100%となり、現行の科目配置によって提供される授業の内容はほとんどの学生に高く評価されていると考えられる。

設問4（Semester間の開設授業科目数のバランス）については、「適切である」、「ほぼ適切である」と回答した学生の割合を合わせると89.5%となり、設問3と同様に多くの学生からの高い満足度を得ていることが読み取れる。設問3と設問4と合わせて考えれば、カリキュラム全般に対する高い評価を得ているといえる。

設問5（GPAによる評価）では、「適切である」、「ほぼ適切である」と回答した学生の割合を合わせると94.7%となり、オンライン講義直前の2018～2019年度の水準まで回復している。2020年度ではオンライン形式での講義が行われた初年度であったこともあり、成績評価の方針が一時的にわかりにくくなっていた可能性が考えられ、経過を注視する必要があった。しかし、2019年度以前に近い水準に改善していることから、大きな問題は生じていないといえる。

設問6（時間割上の配置）では、「適切である」、「ほぼ適切である」と回答した学生の割合を合わせると84.2%となり、学生にとって受講しやすい時間割が組まれていることが読み取れる。時間割に関係なく受講可能なオンデマンド形式での講義配信が多くの科目で取り入れられるようになったことが理由として考えられる。

設問7（講義室の満足度）では、「満足である」、「ほぼ満足である」と回答した学生の割合を合わせると73.7%となり、講義室への満足度は高いものと考えられる。2020年度以降でやや低い傾向にある点については、修了者の在籍期間であった2020年度から2022年度に渡って新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のために講義室の利用が制限されていたことが原因として考えられる。

設問8（院生研究室の満足度）については、「満足である」、「ほぼ満足である」と回答した学生の割合を合わせると52.6%となり、院生研究室について半数以上の学生から高い満足度を得られている。2020年度以降低下傾向にあるのは、設問7と同様の理由により、在籍期間を通じて院生研究室への出入りに制限が課されていたため、利用しにくい状況が継続していたことが原因と思われる。

設問9（会計大学院の総合的な満足度）では、「満足である」、「ほぼ満足である」と回答した学生の割合を合わせると94.7%となり、当会計大学院への学生の満足度は概ね高い水準にあることがわかる。

本アンケートの回答は、回答を修了者に限定していることから、現在の在籍者も含めた現状の会計大学院全体での評価傾向とは異なるかもしれない。しかし、修了者は会計大学院の教育制度への理解度が高く、施設の使用期間も長いとため、実態の理解を伴う質の高いアンケート結果であると考えられる。以上の回答結果を踏まえて、今後も引き続き、充実したカリキュラムを保持・設計するとともに、提供可能な施設を整備していきたいと考える。

4. 「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

4.1. アンケートの実施状況

「会計大学院の授業に関するアンケート」は、前述の通り、プロジェクト調査・研究以外で、履修者数が5名以上の科目を対象として行っており、今semesterでは24科目で実施された。アンケート実施科目の一覧と、科目別の履修者数およびアンケート回答数をまとめると表1のようになる。今回のアンケートでは、対象となる科目の述べ履修者数465名に対して193名から回答を得た。アンケートの回答率は41.5%である。他専攻、他部局の動向を考慮すると、一定の水準を確保しているものと考えられる。

授業科目名	履修者数	回収数
財務会計2	38	17
財務諸表分析	11	9
企業評価	13	5
簿記2	22	17
公会計1	37	10
I F R S 1	14	12
管理会計1	16	7
管理会計3	22	13
原価計算2	48	18
事例研究(原価計算)	20	8
監査実務I	29	7
監査実務II	15	3
監査計画の編成法1	14	4
内部統制の実務	14	2
コーポレートファイナンス 1	25	6
企業情報システム	7	3
情報システム設計	27	15
統計学	11	6
金融行政II	8	4
財務行政	8	4
企業法1	13	3
事例研究(法人税法)	5	3
事例研究(会計職業倫理)	16	6
英文外書講読b	32	11
合計	465	193

表1：アンケート実施科目と回収数

4.2. アンケートに関する基本統計量

表2は、設問1, 17, 18を除いて各設問の選択肢に好ましい回答ほど値が大きくなるような数値を設定したうえで、各設問の回答の分布と基本統計量（平均値、中央値、最頻値、標準偏差）を示している。なお、具体的なアンケートの内容については巻末資料2を参照されたい。

項目\設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	試験対策	キャリア	資格	入学前	受講方法
6	45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	99	173	0	0	7	50	111	121	118	115	116	91	118	72	100	74	44	17
4	12	16	0	6	4	96	61	55	57	52	52	72	53	40	73	-	74	97
3	28	2	6	9	7	37	20	12	12	18	22	28	19	57	18	68	40	79
2	1	1	19	27	31	10	1	3	3	5	2	1	2	18	1	-	33	0
1	7	1	57	86	56	0	0	2	3	3	1	1	1	6	1	51	2	0
0	1	-	111	65	88	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	193	193	193	193	193	193	193	193	193	193	193	193	193	193	193	193	193	193
平均値	4.69	4.86	0.59	0.99	0.98	3.96	4.46	4.50	4.47	4.40	4.45	4.30	4.48	3.80	4.40	3.24	3.65	3.68
中央値	5	5	0	1	1	4	5	5	5	5	5	4	5	4	5	3	4	4
最頻値	5	5	0	1	0	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4
標準偏差	1.24	0.48	0.79	0.97	1.24	0.81	0.70	0.77	0.81	0.88	0.77	0.77	0.76	1.13	0.72	1.59	1.04	0.63

表2：アンケートの基本統計量

表2にあるとおり、設問6（理解）から設問15（キャリア）にかけての授業の理解度や評価に関する設問では平均値が概ね4以上であり、中央値や最頻値も概ね最高評価の5である。この傾向は、過去数年のアンケート結果と大きな違いはない。設問18（受講方法）にみられるように、主な講義方法はオンライン（4はオンデマンド、3はリアルタイムを意味する）であるものの、講義に対する評価は良好であったといえる。

ただし、学生が授業の予習、復習、宿題にかかる時間はあまり多くない状態が何年も続いている。設問3（予習）、設問4（復習）、設問5（宿題）では回答した学生のうちの半数以上が選択肢0または1であり、科目別での毎回の講義の予習・復習・宿題にかかる時間は、それぞれ2時間以下であることがわかる。オンライン講義となった直近においても対面であった過年度と同様の傾向であり、継続的にこの課題の原因と対処する方法を検討する必要がある。なお、設問1（属性）にあるように公認会計士コースの学生が多く、設問14（試験対策）からわかるとおりに本学の講義は資格試験等と関連する内容も含むため、学生が別途取り組んでいる試験対策の学習とも重なる部分があることから、一概に学生の学習時間が不足しているとは解釈しにくい。とはいえ、会計大学院が提供する講義内容は試験対策に限らないことから、理解には一定の学習時間が必要と考えられる。

全体として、学生からの各講義に対する評価は高い水準にあるといえるものの、予習、復習、宿題にかかる時間を一定時間確保するように授業設計を工夫する必要があると考えられる。

4.3. 各設問間の相関

表3は、各設問の回答間の相関関係を示している。なお、設問1, 17, 18はそれぞれ受講者属性、入学前の所属、主な受講方法に関する設問であり、相関係数の意味が乏しいため除外している。また、±0.50以上の相関係数については太字（色付き）にしている。設問16の資格については、より難易度の高い資格であるほど高いスコアとなるようになっている。

各設問は、概ね、学習時間に関する項目（設問3～5）、授業評価に関する項目（設問6～13）、学生の将来につながる授業かどうかに関する項目（設問14,15）に分けられる。±0.50以上の相関係数については太字（色付き）にしている。なお、設問1は回答者属性であり、相関係数の意味が乏しいため除外している。設問16（資格）については、より難易度の高い資格を取得しているほど高い値となるように設定している。

設問	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	試験対策	キャリア	資格
2 出席	1.00														
3 予習	-0.04	1.00													
4 復習	0.10	0.43	1.00												
5 宿題	0.12	0.19	0.29	1.00											
6 理解	0.22	-0.10	0.03	-0.04	1.00										
7 難易度	0.22	-0.15	0.03	0.15	0.50	1.00									
8 教員準備	0.20	-0.19	-0.06	0.01	0.46	0.73	1.00								
9 プレゼン	0.18	-0.14	-0.04	-0.01	0.52	0.69	0.84	1.00							
10 教材	0.18	-0.18	0.03	0.06	0.48	0.65	0.80	0.78	1.00						
11 評価方法	0.26	-0.23	0.02	0.03	0.48	0.60	0.69	0.72	0.72	1.00					
12 シラバス	0.24	-0.14	0.10	0.05	0.44	0.53	0.57	0.58	0.64	0.68	1.00				
13 教員評価	0.20	-0.20	-0.04	0.02	0.43	0.70	0.84	0.80	0.87	0.77	0.68	1.00			
14 試験対策	0.17	-0.02	0.12	0.08	0.47	0.44	0.32	0.37	0.41	0.41	0.50	0.40	1.00		
15 キャリア	0.20	-0.04	0.07	0.12	0.35	0.58	0.56	0.58	0.60	0.55	0.61	0.64	0.44	1.00	
16 資格	-0.02	-0.33	-0.06	0.00	0.22	0.14	0.08	0.09	0.12	0.16	0.01	0.11	0.07	0.12	1.00

表3：質問項目間の相関関係

まず、学生の学習時間に関する予習（設問3）、復習（設問4）、宿題（設問5）に注目する。近年の傾向であるが、オンライン授業の開始前と異なり、これらの設問間の相関は弱くなってきている。これは、授業ごとに予習、復習、宿題の重点が異なることから、異なる時間の掛け方をしている可能性が示唆されている。なお、学習時間（設問3～5）と授業評価（設問6～13）または将来との関連性（設問14, 15）との相関は全体的に高くない。そのため、学習時間が短いことが講義の難易度、理解水準、将来に対する有用性の低下につながっているような傾向は見られない。

次に、授業評価に関連した、理解（設問6）、授業の難易度（設問7）、教員の準備（設問8）、プレゼン（設問9）、教材（設問10）、評価方法（設問11）、シラバス（設問12）、教員評価（設問13）に着目する。従来と同様の傾向であるが、これらの設問間では高い正の相関が観察されることから、適切な難易度設計や評価方法、シラバスに始まる十分な準備やプレゼン・教材の設定、高い教員評価は、それぞれが密接に関係し、相乗的な効果を持つものと理解できる。

続いて、試験対策（設問14）とキャリア（設問15）という、将来の進路に関する有用性に着目する。全体として、試験対策（設問14）よりもキャリア（設問15）の方が、授業評価に関する回答（設問7～13）との関係が強い。本学では、学術研究の動向や会計実務に基づく知識、倫理や英語教育など、会計士試験と直結しなくとも長期的な視点で学生の将来に有用となる講義を開講している。将来のキャリアに役立つ授業であるほど授業評価も高いことから、そのような内容の重要性が高まっていることが読み取れる。

また、設問16（資格）については、他の設問との相関が特に観察されていない。

これらの傾向はおおむね、過去と同様である。上記の表については過去の報告書でも報告されている。過去の報告書については、会計大学院WEBサイトを参照されたい（<http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/classeva.html>）。

4.4. 設問ごとの集計結果と所見

以下では、それぞれの設問についての集計結果と過去4年間の推移を示し、設問ごとの所見を示す。なお、アンケート全項目の集計結果については巻末資料4を参照されたい。

設問1：あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい

選択項目	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期
公認会計士コース（2年）	20.7%	23.2%	33.0%	19.9%	27.0%	25.2%	34.4%	23.3%
公認会計士コース（1年）	69.3%	59.9%	37.7%	48.1%	43.4%	39.7%	41.1%	51.3%
会計リサーチコース	7.0%	9.0%	8.3%	19.3%	9.8%	9.4%	6.3%	6.2%
ビジネスアカウンティングコース	-	-	12.67%	11.60%	16.0%	21.4%	14.7%	14.5%
経済経営学専攻	0.3%	5.2%	3.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.5%
経済学部	2.7%	1.0%	4.3%	0.0%	1.2%	0.9%	2.7%	3.6%
その他	0.0%	1.7%	1.0%	1.1%	1.6%	3.4%	0.9%	0.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	300	289	300	181	244	234	224	193

ここ3年のアンケート回答者の所属は、公認会計士コースの回答者が70～80%、会計リサーチコースの回答者が10%弱程度、ビジネスアカウンティングコースの回答者の割合が15%程度である。

設問2：この授業にどのくらい出席しましたか？（おおよその出席率で回答して下さい）

選択項目	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期
90%以上	91.1%	84.5%	94.7%	95.0%	95.9%	88.5%	93.8%	89.6%
89-70%	3.8%	9.5%	4.3%	4.4%	3.3%	10.7%	5.4%	8.3%
69-50%	1.0%	3.5%	0.0%	0.0%	0.4%	0.4%	0.4%	1.0%
49-20%	0.7%	1.4%	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%	0.4%	0.5%
20%未満	3.4%	1.1%	0.7%	0.6%	0.4%	0.0%	0.0%	0.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	293	284	300	181	244	234	224	193

90%以上出席した学生の割合が9割に近い水準にあり、大きな問題は見受けられない。ただし、2020年前期から数セメスターからは若干の低下が見られる。これは、本セメスターでは対面講義が増えた一方で、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐために、欠席要件を緩和していることが影響していると考えられる。

以下、設問3から設問5は、学生の時間外での学習に係る設問であることからまとめて検討する。

設問3：この授業の予習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？（セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。）

選択項目	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期
5時間以上	5.2%	4.5%	4.0%	2.2%	5.3%	3.0%	0.4%	0.0%
4-5時間	3.9%	3.1%	1.0%	1.7%	2.0%	1.7%	2.2%	0.0%
3-4時間	8.2%	10.5%	7.3%	4.4%	3.3%	3.8%	4.5%	3.1%
2-3時間	13.1%	14.7%	17.0%	12.7%	10.2%	15.8%	12.1%	9.8%
1-2時間	31.1%	33.6%	29.7%	25.4%	36.9%	35.0%	32.1%	29.5%
1時間未満	38.4%	33.6%	41.0%	53.6%	42.2%	40.6%	48.7%	57.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	305	286	300	181	244	234	224	193

設問4：この授業の復習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？（宿題に掛けた時間を含めずに回答して下さい。）

選択項目	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期
5時間以上	3.6%	3.1%	4.3%	4.4%	4.9%	3.4%	0.4%	0.0%
4-5時間	4.6%	5.2%	3.0%	0.6%	1.6%	2.1%	0.9%	3.1%
3-4時間	10.8%	7.7%	9.0%	7.7%	7.0%	7.7%	4.0%	4.7%
2-3時間	13.1%	21.7%	15.7%	12.2%	14.8%	19.2%	13.4%	14.0%
1-2時間	40.7%	32.5%	37.7%	33.7%	42.6%	39.3%	42.9%	44.6%
1時間未満	27.2%	29.7%	30.3%	41.4%	29.1%	28.2%	38.4%	33.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
総数	305	286	300	181	244	234	224	193

設問 5：この授業の宿題に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？

選択項目	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期
5時間以上	5.3%	8.1%	6.0%	11.0%	7.0%	7.3%	4.0%	3.6%
4-5時間	7.2%	4.2%	3.7%	1.7%	5.7%	6.0%	4.5%	2.1%
3-4時間	12.5%	9.5%	9.0%	9.4%	7.8%	12.4%	8.0%	3.6%
2-3時間	20.7%	17.3%	17.7%	11.0%	16.0%	19.7%	14.7%	16.1%
1-2時間	30.3%	28.6%	38.3%	22.7%	32.8%	29.9%	34.8%	29.0%
1時間未満	24.0%	32.2%	25.3%	44.2%	30.7%	24.8%	33.9%	45.6%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	304	283	300	181	244	234	224	193

設問 3 から設問 5 に回答した学生の多くは、一つの科目の毎回の講義の予習、復習、宿題を、それぞれ 2 時間以下の学習時間で済ませていることがわかる。この傾向は、過去 4 年間から変わっていない。

学習時間の確保は担当教員にとって継続的な課題であるが、予習、復習、宿題のいずれに重点を置くかは科目担当員の裁量によるところである。科目特性に応じて、何に力点を置くのかを明示し、学習時間を学生に確保させるように継続して工夫する必要があるといえよう。

設問 6：この授業の内容をどの程度理解できたと思いますか？

選択項目	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期
理解できた	33.6%	50.3%	39.3%	44.8%	50.4%	43.2%	49.1%	25.9%
ほぼ理解できた	48.2%	36.0%	47.7%	47.0%	38.1%	42.7%	37.1%	49.7%
どちらともいえない	14.7%	10.5%	8.3%	6.1%	11.1%	10.7%	12.1%	19.2%
あまり理解できなかった	2.9%	2.8%	3.7%	1.7%	0.4%	3.4%	1.3%	5.2%
理解できなかった	0.7%	0.3%	1.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	307	286	300	181	244	234	224	193

講義内容を「理解できた」または「ほぼ理解できた」と回答した学生の割合は過去と同様に高い水準を維持している。この水準を今後も維持する必要がある。

設問 7：この授業の難易度は会計大学院の授業として適切だと思いますか？

選択項目	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期
適切	66.9%	73.7%	66.3%	71.3%	71.7%	59.4%	67.4%	57.5%
ほぼ適切	25.0%	19.7%	24.0%	25.4%	20.1%	29.5%	24.6%	31.6%
どちらともいえない	6.2%	5.2%	6.7%	2.2%	6.6%	9.0%	7.1%	10.4%
やや不適切	1.6%	1.0%	1.7%	1.1%	1.6%	1.7%	0.4%	0.5%
不適切	0.3%	0.3%	1.3%	0.0%	0.0%	0.4%	0.4%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	308	289	300	181	244	234	224	193

難易度が「適切」または「ほぼ適切」と回答した学生の割合は従来と同じように 9 割前後の水準であり、難易度の設定は概ね適切と考えられる。

ただし、2021 年度以降では「どちらともいえない」を選択する回答が過去 4 年間と比べて微増している。この点は、設問 14、15 で示されるように、公認会計士試験対策に直接結びつきにくいものの将来のキャリアに有用と考えられる内容を取り扱う科目も増えていることが関係しているかもしれない。

設問 8：教員のこの授業に対する準備は十分でしたか？

選択項目	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期
十分	79.8%	82.4%	67.0%	83.4%	79.5%	67.1%	76.3%	62.7%
ほぼ十分	13.7%	12.5%	20.0%	14.9%	16.4%	25.2%	20.1%	28.5%
どちらともいえない	4.6%	4.2%	9.7%	1.1%	2.9%	6.4%	2.7%	6.2%
やや不十分	1.6%	0.3%	2.0%	0.6%	0.4%	0.9%	0.9%	1.6%
不十分	0.3%	0.7%	1.3%	0.0%	0.8%	0.4%	0.0%	1.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	307	289	300	181	244	234	224	193

教員の準備が「十分」または「ほぼ十分」と回答した学生の割合は約 9 割であり、従来と同じように高い水準となった。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 9：教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？

選択項目	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期
良かった	77.2%	82.4%	63.7%	86.2%	71.7%	67.1%	70.1%	61.1%
まあまあ良かった	13.4%	11.1%	20.7%	12.2%	22.1%	25.2%	24.6%	29.5%
どちらともいえない	6.8%	5.2%	11.0%	1.7%	5.3%	6.8%	4.0%	6.2%
やや悪かった	2.3%	0.7%	2.0%	0.0%	0.8%	0.4%	0.9%	1.6%
悪かった	0.3%	0.7%	2.7%	0.0%	0.0%	0.4%	0.4%	1.6%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	307	289	300	181	244	234	224	193

教員のプレゼンテーションが「良かった」または「まあまあ良かった」と回答した学生は9割程度であり、従来と同じように高い水準にある。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 10：テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？

選択項目	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期
適切	69.8%	78.2%	66.3%	75.1%	68.9%	61.5%	67.4%	59.6%
ほぼ適切	19.2%	11.8%	23.0%	22.1%	18.4%	25.6%	24.1%	26.9%
どちらともいえない	7.1%	8.0%	6.7%	2.2%	9.0%	10.3%	6.3%	9.3%
やや不適切	3.6%	1.0%	3.0%	0.6%	1.2%	1.7%	0.9%	2.6%
不適切	0.3%	1.0%	1.0%	0.0%	2.5%	0.9%	1.3%	1.6%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	308	289	300	181	244	234	224	193

テキスト等が「適切」または「ほぼ適切」と回答した学生の割合は概ね9割に近い水準であり、従来と同じように高い水準にある。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 11：この授業の成績評価の方法は適切であると思いますか？

選択項目	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期
適切	77.3%	78.5%	59.7%	72.4%	71.3%	63.7%	73.7%	60.1%
ほぼ適切	16.2%	12.5%	26.7%	22.1%	19.7%	26.9%	22.3%	26.9%
どちらともいえない	5.5%	5.9%	9.3%	3.9%	7.0%	7.3%	2.7%	11.4%
やや不適切	1.0%	2.1%	3.3%	1.1%	1.6%	0.9%	0.4%	1.0%
不適切	0.0%	1.0%	1.0%	0.6%	0.4%	1.3%	0.9%	0.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	308	289	300	181	244	234	224	193

成績評価の方法が「適切」または「ほぼ適切」と回答した学生の割合は9割程度であり、従来と同様に高い水準にある。成績評価はGPAによる評価の基礎となっているため、学生からの納得感は重要である。ほとんどの学生は適切に成績評価が行われていると感じており、今後もこれを維持する必要がある。

設問 12：この授業のシラバスは授業を理解する上で役に立ちましたか？

選択項目	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期
役に立った	69.5%	73.7%	62.0%	69.1%	72.5%	62.8%	68.8%	47.2%
まあまあ役に立った	21.1%	16.3%	21.7%	23.2%	20.5%	27.4%	22.8%	37.3%
どちらともいえない	8.4%	7.6%	11.7%	6.1%	5.7%	7.3%	7.6%	14.5%
あまり役に立たなかった	1.0%	2.1%	2.3%	1.7%	0.4%	1.7%	0.9%	0.5%
役に立たなかった	0.0%	0.3%	2.3%	0.0%	0.8%	0.9%	0.0%	0.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	308	289	300	181	244	234	224	193

シラバスが「役に立った」または「まあまあ役に立った」と回答した学生の割合は8～9割程度であり、従来と同じように高い水準を維持している。

設問 13：総合的に見て、この授業における教員のパフォーマンスをどう評価しますか？

選択項目	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期
評価できる	75.0%	78.9%	63.0%	79.0%	75.8%	61.5%	70.1%	61.1%
まあまあ評価できる	17.9%	15.9%	24.0%	18.2%	18.4%	31.2%	25.4%	27.5%
どちらともいえない	5.5%	2.4%	7.3%	1.7%	3.7%	5.6%	3.1%	9.8%
あまり評価できない	1.0%	1.7%	4.0%	1.1%	1.2%	0.9%	1.3%	1.0%
評価できない	0.6%	1.0%	1.7%	0.0%	0.8%	0.9%	0.0%	0.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	308	289	300	181	244	234	224	193

教員のパフォーマンスを「評価できる」または「まあまあ評価できる」とした学生の割合は9割程度であり、従来と同様に高い水準を維持している。総合的に教員に対する学生からの満足度は高いと考えられるため、今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 14：この授業は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？

選択項目	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期
役立つ	55.0%	59.2%	57.3%	44.2%	57.0%	44.0%	58.0%	37.3%
まあまあ役に立つ	18.6%	13.9%	20.7%	14.9%	14.3%	19.2%	20.5%	20.7%
どちらともいえない	16.0%	15.7%	13.3%	26.0%	17.2%	23.5%	12.9%	29.5%
あまり役に立たない	4.6%	4.9%	4.3%	6.1%	4.9%	6.4%	4.0%	9.3%
役に立たない	5.9%	6.3%	4.3%	8.8%	6.6%	6.8%	4.5%	3.1%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	307	287	300	181	244	234	224	193

公認会計士試験の受験に「役立つ」または「まあまあ役立つ」と回答した学生の割合は、2020年度以降、後期においてやや低下している。これは設問1で見られるとおり、ビジネスアカウンティングコースの学生が一定数増加していることや、それに伴い公認会計士試験対策に直結する科目以外にも充実してきていることを反映しているものと思われる。

設問 15：この授業は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか？

選択項目	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期
役立つ	66.4%	72.0%	64.7%	69.6%	68.4%	62.8%	73.2%	51.8%
まあまあ役に立つ	20.2%	16.3%	23.7%	19.9%	20.1%	26.1%	17.9%	37.8%
どちらともいえない	10.1%	8.7%	9.0%	7.7%	7.4%	9.4%	7.6%	9.3%
あまり役に立たない	1.0%	1.0%	1.7%	2.8%	2.9%	1.7%	0.9%	0.5%
役に立たない	2.3%	2.1%	1.0%	0.0%	1.2%	0.0%	0.4%	0.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	307	289	300	181	244	234	224	193

将来のキャリアに「役立つ」または「まあまあ役立つ」と回答した学生の割合は9割に近い水準にあり、従来と同じように高い水準を維持している。今後もこの水準を維持する必要がある。受講者の多くが将来における有用性を感じている点を考慮すれば、設問14に示すように公認会計士試験対策に役立つとの回答の減少傾向はあっても、各受講生のキャリア志向や関心に合う講義内容になっていると考えられる。

設問 16：あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。

選択項目	2020 後期	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期
税理士会計科目 / 公認会計士短答式 / 日商簿記 1 級	42.0%	23.0%	24.4%	25.4%	38.3%
日商簿記 2 級	43.1%	55.3%	53.4%	58.5%	35.2%
上記についてなし	14.9%	21.7%	22.2%	16.1%	26.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	181	244	234	224	193

設問 16 では、資格試験を 3 段階（① 税理士会計科目 / 公認会計士試験短答式 / 日商簿記 1 級レベル以上、② 2 級レベル、③ それ以下）に分けて、回答者がどの段階の知識があるかを質問している。入試段階で一定の簿記の素養を確認しているため、学生は概ね日商簿記 2 級レベル以上の実力は有していると考えられる。ただし、本設問では、資格の有無を問うているので、必ずしも実力と連動するわけではないことに留意が必要である。

2022 年度後期の回答は、① 38.3%、② 35.2%、③ 26.4% であった。従来と同様に、回答者の半数以上が 2 級レベルの知識を持っているほか、1 級レベル以上の知識のある回答者も 3 人に 1 人以上である。ただし、3 級以下の学生も 2～3 割程度いることから、簿記などの計算能力には受講者の中でもばらつきがあることに留意して授業設計を行う必要があるといえる。

設問 17：会計大学院に入る前の所属について、適切なものにチェックしてください。

選択項目	2022 前期	2022 後期
東北大学経済学部 に所属	14.3%	22.8%
東北大学の経済学部以外に所属、あるいは他大学に所属	43.8%	38.3%
社会人として勤務	21.9%	20.7%
留学生	18.8%	17.1%
その他	1.3%	1.0%
計	100.0%	100.0%
回答数	224	193

設問 17 は回答者の入学前の所属についてである。半数以上が東北大学ないし他の大学に所属している学生であるが、社会人や留学生が 2 割程度在籍していることが読み取れる。

設問 18：この授業の主な受講方法を選択してください。

選択項目	2022 後期
対面	8.8%
オンデマンド	50.3%
リアルタイム	40.9%
その他	0.0%
計	100.0%
回答数	193

設問 18 は授業の主な受講方法についてである。コロナ下であったこともあり、大半がオンデマンドやリアルタイムといったオンライン授業であることが読み取れる。

4.5. 自由記入欄の意見について

「会計大学院の授業に関するアンケート」に設けられた自由記入欄については、科目担当教員による対応が必要であるので、寄せられた意見はこれまで通り担当教員へ報告し、改善すべき点は改善を行うよう依頼している。

5. 結び

2022年度後期における「会計大学院の修了者に対するアンケート」と「会計大学院の授業に関するアンケート」の集計結果を踏まえると、本会計大学院の授業は総合して良好な評価を得たと考えられる。

本会計大学院が抱える課題については、学生の学習時間の確保である。各科目の毎回の講義における予習・復習・宿題にかかる時間は、それぞれ2時間以下と回答している学生が多い。個々の授業の設計は各教員の裁量に委ねるところであるが、学生の学習時間がきちんと確保されるように継続して工夫する必要があると考える。また、ビジネスアカウンティングコースの開設から3年となり、科目や講義内容も公認会計士試験対策に結びつく内容だけでなく、より実践的な内容に発展した内容も含まれてきている。その影響として、講義で扱う内容や資料が難しいと感じられやすくなっている傾向が僅かながらに見られるが、受講生の多様化を考慮しながら将来のキャリアにおける位置づけや有用性を適切に説明することが必要と考えられる。

最後に、アンケートに真摯に取り組んでいただいた学生各位に感謝を申し上げます。

資料1：2022年度「会計大学院の修了者に対するアンケート」設問用紙

修了者に対するアンケート（2022年度）

このアンケートは、会計大学院のカリキュラムや施設等に改善に役立てることを目的として、修了者を対象にアンケートを実施します。2021年度修了の方は、会計大学院の発展と後輩のために、修了者アンケートにご協力ください。

本アンケートへの回答には東北大IDが必要となりますが、回答で個人アドレスは識別せず個人名と回答のひもづけは行いません。

回答内容からの個人特定が気になる場合には、コース、入学前の状況、自由記述欄は無回答でかまいません。

個人ごとの回答についての情報は一切公表せず、集計された結果のみを利用します。

ただし、自由記述については原則として原文のまま関連する担当者に伝達します。

番号	質問	回答
1	あなたのコースについて、該当するものを選んで下さい。	(1) 公認会計士コース (2) 会計リサーチコース (3) ビジネスアカウンティングコース
2	入学前の状況	(1) 学部（日本の大学） (3) 社会人（企業等に勤務） (2) 学部（海外の大学） (4) その他
3	これまでに受講してきた授業をふまえ、授業内容は会計大学院として適切な水準にあると思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
4	セメスターごとの開設授業科目数のバランスは適切だと思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
5	成績評価に用いているGPAは、学生個々の能力を適切に評価できる（た）と思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
6	時間割上の配置について適切だと思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
7	講義室について満足度をお聞かせください	(5) 満足である (2) やや不満足である (4) ほぼ満足である (1) 不満足である (3) どちらともいえない
8	院生研究室について満足度をお聞かせください	(5) 満足である (2) やや不満足である (4) ほぼ満足である (1) 不満足である (3) どちらともいえない
9	会計大学院のトータルの満足度について	(5) 満足である (2) やや不満足である (4) ほぼ満足である (1) 不満足である (3) どちらともいえない

自由記入欄

（授業、施設、その他の事項について、ご自由にご意見を記述ください（個人を中傷する内容はお控えください））。

※今年度のアンケートはGoogle Formで実施しています。表示形式は異なりますが、設問・選択肢は記載の通りです。

資料2：2022年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」設問用紙

会計大学院の授業に関するアンケート（2022年度後期）

このアンケートは会計大学院の授業改善に学生諸君の意見を反映するためのものであり、集計結果等は報告書として公表致します。東北大IDが必要となります。

授業担当者には誰がどのような回答したのかについての情報は一切公表せず、集計された結果のみを伝達します。ただし、自由記述については原則として原文のまま担当者に伝達します。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(6) 公認会計士コース（2年） (2) 経済経営学専攻 (5) 公認会計士コース（1年） (1) 経済学部 (4) 会計リサーチコース (0) その他 (3) ビジネスアカウンティングコース

科目内容について

番号	質問	回答
2	この授業にどのくらい出席しましたか？（おおよその出席率で回答して下さい）	(5) 90%以上 (4) 89-70% (3) 69-50% (2) 49-20% (1) 20%未満
3	この授業の予習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？（セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。）	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満
4	この授業の復習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？（宿題に掛けた時間を含めずに回答して下さい。）	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満
5	この授業の宿題に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満
6	この授業の内容をどの程度理解できましたか？	(5) 理解できた (4) ほぼ理解できた (3) どちらともいえない (2) あまり理解できなかった (1) 理解できなかった
7	この授業の難易度は会計大学院の授業として適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である

番号	質問	回答
8	教員のこの授業に対する準備は十分でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった
9	教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった
10	テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である
11	この授業の成績評価の方法は適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である
12	この授業のシラバスは授業を理解する上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった
13	総合的に見て、この授業における教員のパフォーマンスをどう評価しますか？	(5) 評価できる (4) まあまあ評価できる (3) どちらともいえない (2) あまり評価できない (1) 評価できない
14	この授業は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない
15	この授業は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない
16	あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 or 公認会計士短答式・論文式 or 日商簿記1級 (3) 日商簿記2級 (1) 上記について無し
17	会計大学院に入る前の所属について、適切なものにチェックしてください。	(5) 東北大学経済学部 に所属 (4) 東北大学の経済学部以外に所属、あるいは他大学に所属 (3) 社会人として勤務 (2) 留学生 (1) その他

番号	質問	回答
18	この授業の主な受講方法を選択してください。	(5) 対面 (4) オンデマンド (3) リアルタイム (2) その他
19	自由記入欄（授業の感想, 担当教員への要望, また本アンケートの各質問に関連した更なる意見等を自由に記入して下さい。）	(自由記述)

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

※今年度のアンケートはGoogle Formで実施しています。表示形式は異なりますが、設問・選択肢は記載の通りです。

資料3：2022年度「会計大学院の修了者に対するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 回答者属性	公認会計士コース	16	84.2%
	ビジネスアカウンティングコース	3	15.8%
	会計リサーチコース	0	0.0%
	合計	19	100.0%
設問2 入学前の状況	学部（日本の大学）	12	63.2%
	学部（海外の大学）	3	15.8%
	社会人（企業等に勤務）	3	15.8%
	その他	1	5.3%
	合計	19	100.0%
設問3 これまでに受講してきた授業をふまえ、授業内容は会計大学院として適切な水準にあると思いますか？	適切である	13	68.4%
	ほぼ適切である	6	31.6%
	どちらともいえない	0	0.0%
	やや不適切である	0	0.0%
	不適切である	0	0.0%
	合計	19	100.0%
	設問4 セメスターごとの開講授業科目数のバランスは適切だと思いますか？	適切である	12
ほぼ適切である	5	26.3%	
どちらともいえない	2	10.5%	
やや不適切である	0	0.0%	
不適切である	0	0.0%	
合計	19	100.0%	
設問5 成績評価に用いているGPAは、学生個々の能力を適切に評価できる（た）と思いますか？	適切である	12	63.2%
	ほぼ適切である	6	31.6%
	どちらともいえない	1	5.3%
	やや不適切である	0	0.0%
	不適切である	0	0.0%
	合計	19	100.0%
設問6 時間割上の配置について適切だと思いますか？	適切である	8	42.1%
	ほぼ適切である	8	42.1%
	どちらともいえない	2	10.5%
	やや不適切である	1	5.3%
	不適切である	0	0.0%
	合計	19	100.0%
設問7 講義室について満足度をお聞かせください。	満足である	8	42.1%
	ほぼ満足である	6	31.6%
	どちらともいえない	5	26.3%
	やや不満足である	0	0.0%
	不満足である	0	0.0%
	合計	19	100.0%
設問8 院生研究室について満足度をお聞かせください	満足である	3	15.8%
	ほぼ満足である	7	36.8%
	どちらともいえない	6	31.6%
	やや不満足である	2	10.5%
	不満足である	1	5.3%
	合計	19	100.0%
設問9 会計大学院のトータルの満足度について	満足である	8	42.1%
	ほぼ満足である	10	52.6%
	どちらともいえない	1	5.3%
	やや不満足である	0	0.0%
	不満足である	0	0.0%
	合計	19	100.0%

資料4：2022年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 回答者属性	公認会計士コース(2年)	45	23.32%
	公認会計士コース(1年)	99	51.30%
	会計リサーチコース	12	6.22%
	ビジネスアカウンティン グコース	28	14.51%
	経済経営学専攻	1	0.52%
	経済学部	7	3.63%
	その他	1	0.52%
	合計	193	100.00%
設問2 この講義にどのくらい 出席しましたか。	90%以上	173	89.64%
	89-70%	16	8.29%
	69-50%	2	1.04%
	49-20%	1	0.52%
	20%未満	1	0.52%
合計	193	100.00%	
設問3 この講義の予習にどの くらいの時間を掛けま したか。	5時間以上	0	0.00%
	4-5時間	0	0.00%
	3-4時間	6	3.11%
	2-3時間	19	9.84%
	1-2時間	57	29.53%
	1時間未満	111	57.51%
合計	193	100.00%	
設問4 この講義の復習にどの くらいの時間を掛けま したか。	5時間以上	0	0.00%
	4-5時間	6	3.11%
	3-4時間	9	4.66%
	2-3時間	27	13.99%
	1-2時間	86	44.56%
	1時間未満	65	33.68%
合計	193	100.00%	
設問5 この講義の宿題にどの くらいの時間を掛けま したか。	5時間以上	7	3.63%
	4-5時間	4	2.07%
	3-4時間	7	3.63%
	2-3時間	31	16.06%
	1-2時間	56	29.02%
	1時間未満	88	45.60%
合計	193	100.00%	
設問6 この講義の内容をどの 程度理解できたと思 いますか。	理解できた	50	25.91%
	ほぼ理解できた	96	49.74%
	どちらともいえない	37	19.17%
	あまり理解できなかった	10	5.18%
	理解できなかった	0	0.00%
合計	193	100.00%	
設問7 この講義の難易度は会 計大学院の講義として 適切だと思いますか。	適切	111	57.51%
	ほぼ適切	61	31.61%
	どちらともいえない	20	10.36%
	やや不適切	1	0.52%
	不適切	0	0.00%
合計	193	100.00%	
設問8 教員のこの講義に対す る準備は十分でした か。	十分	121	62.69%
	ほぼ十分	55	28.50%
	どちらともいえない	12	6.22%
	やや不十分	3	1.55%
	不十分	2	1.04%
合計	193	100.00%	

	選択項目	人数	割合
設問9 教員の説明や声量な ど、授業でのプレゼン テーションは良好でし たか。	十分	118	61.14%
	ほぼ十分	57	29.53%
	どちらともいえない	12	6.22%
	やや不十分	3	1.55%
	不十分	3	1.55%
合計	193	100.00%	
設問10 テキスト・参考書ある いはプリント等は適切 でしたか。	適切	115	59.59%
	ほぼ適切	52	26.94%
	どちらともいえない	18	9.33%
	やや不適切	5	2.59%
合計	193	100.00%	
設問11 この講義の成績評価の 方法は適切であると思 いますか。	適切	116	60.10%
	ほぼ適切	52	26.94%
	どちらともいえない	22	11.40%
	やや不適切	2	1.04%
合計	193	100.00%	
設問12 この講義のシラバスは 講義を理解する上で役 に立ちましたか。	役に立った	91	47.15%
	まあまあ役に立った	72	37.31%
	どちらともいえない	28	14.51%
	あまり役に立たなかった	1	0.52%
	役に立たなかった	1	0.52%
合計	193	100.00%	
設問13 総合的に見て、この講 義における教員のバ フォーマンスをどう評 価しますか。	評価できる	118	61.14%
	まあまあ評価できる	53	27.46%
	どちらともいえない	19	9.84%
	あまり評価できない	2	1.04%
	評価できない	1	0.52%
合計	193	100.00%	
設問14 この講義は公認会計士 試験を受験する上で役 に立つと思いますか。	役立つ	72	37.31%
	まあまあ役に立つ	40	20.73%
	どちらともいえない	57	29.53%
	あまり役に立たない	18	9.33%
	役に立たない	6	3.11%
合計	193	100.00%	
設問15 この講義は、将来の キャリアにおいて役立 つと思いますか。	役立つ	100	51.81%
	まあまあ役に立つ	73	37.82%
	どちらともいえない	18	9.33%
	あまり役に立たない	1	0.52%
	役に立たない	1	0.52%
合計	193	100.00%	
設問16 あなたが既に合格して いる資格試験等につい て、該当するものを選 んで下さい。	税理士会計科目 / 公認会 計士短答式 / 日商簿記1 級	74	38.34%
	日商簿記2級	68	35.23%
	上記について無し	51	26.42%
	合計	193	100.00%
設問17 会計大学院に入る前の 所属について、適切な ものにチェックしてく ださい。	東北大学経済学部 に所属	44	22.80%
	東北大学の経済学部 以外に所属、あるいは他 大学に所属	74	38.34%
	社会人として勤務	40	20.73%
	留学生	33	17.10%
	その他	2	1.04%
	合計	193	100.00%
設問18 この授業の主な受講方 法を選択してください。	対面	17	8.81%
	オンデマンド	97	50.26%
	リアルタイム	79	40.93%
	その他	0	0.00%
合計	193	100.00%	

2022 年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長	吉永 裕登
委員	木村 史彦

会計大学院アンケート実施報告書 2022 年度後期

2023 年 5 月発行

編集・発行：東北大学会計大学院ワークショップ委員会